

澤 奈都さんによる「○sora (まるそら) ドーナツ」の活動報告です。

◇ 関市の若者支援制度を活用し、地産地消商品の開発にチャレンジしました！

関市の本町通りに新たな公共施設、「本町BASE」が建設されました。本町BASEのコンセプトは、“やりたいことにチャレンジできる場をみんなで創り、育て、持続的にぎわいを生み出すこと”です。

まちづくりや農業に関心があった私は、関市の農産物を使用した新たなブランド商品を作り、地元へ貢献したいと考えていました。そこで、本町BASEのシェアキッチンを利用して商品開発や販売ができないかと考えました。



3年次の夏休み、関市市民活動センターが主催した「若者会議」に参加し、その思いを語ったところ、フリーマガジンぶうめらんにお声がけいただき、関市の高校生支援事業の第一弾として本格的に活動を行うことになりました。

自身のSNSで高校生に参加募集をかけ、関市に住む他校の生徒3名がメンバーに加わりました。また、料理や菓子製造のプロにサポートしていただくことで、商品への安心感や注目度が高まると考え、関市にある「café.mabiche」に監修をお願いしました。



今回の活動の目的は大きく分けて2つです。

- 1) 関市の新たなブランド商品を作る。
- 2) 本町BASEに高校生が多く訪れるようにする。

この二つの目的を果たすため、次のことを重点に置いています。

- ・ 関の名産品、円空里芋を使用したドーナツを販売。
生地には円空里芋や岐阜県産の小麦粉を使用し地産地消に取り組んでいます。
- ・ 「○sora (まるそら)」という名前は、円空里芋の円空をもじって名付けました。話題性のある商品を作るためにメンバーで話し合い、呼びやすく覚えやすい名前と、丸くて可愛いフォルムのドーナツを作ることにしました。
- ・ 本町BASEの高校生の利用者を増やす為に、SNSでの発信に主に取り組んでいます。目に止めてもらうように写真にこだわったり、どんな投稿が注目されているか情報分析してみたりしました。

- ・販売したドーナツの価格も、100 円や 150 円など比較的安く設定して、高校生でもどれを買おうか楽しく選べて、気軽に購入できるようにしました。

本町 BASE での販売が成功して知名度が上がり、「地元の高校生が作ったまるそらドーナツ」として、関市に定着してほしいなという期待を胸に、後輩に受け継いで行けるような良い方法はないか思案中です。



新型コロナウイルスの影響で熟考すべきことは沢山あり、もどかしい思いもしましたが、販売も無事終わることができ、自分のやりたいことが実現していく喜びと、地域の人への感謝が一番に感じています。

また、この活動を進めていく中で地域の人と広く関わることができ、まちづくりにおいて実際に課題になっていることを肌で感じました。

私は、長野県立大学に総合型選抜で受験しましたが、まちづくりや地域課題の解決のために大学で学びたいということを語り、合格することができました。やりたいことにチャレンジした行動力と、課題解決への意欲を評価してもらえたのではないかと考えています。

チャレンジの機会を与えてもらい、高校生でも声を挙げれば大きなことも実現できるんだ！ということに感動しています。その一方で、大人に任せっきりの自分に気づき反省したので、大学でいろんな経験をし、多くの学びを自分の力にして地元に戻元していきたいと考えています。



<関市若者まちづくり団体・まちづくりプレーヤー登録制度について>

関市では、若者の主体的なまちづくり活動を推進していくために、「関市若者まちづくり団体・まちづくりプレーヤー登録制度」が始まりました。私たちの「Osora ドーナツ」のプロジェクトも、この制度を利用しています。関市役所の市民協働課、せき・まちづくり NPO ぶうめらん が窓口となっています。

<https://www.city.seki.lg.jp/0000015690.html>